

大分県_豊後高田市

持続可能な地域活性化・少子化対策に結びつく取組

【恋人の聖地 第3回地域活性化大賞 応募様式】

プロジェクト名	大分県内最長のインスタ映え観光スポット！ 恋叶トンネルアートプロジェクト
申請者(地方自治体名・ 団体・企業名など)	大分県豊後高田市
1. 地域・施設の特徴	<p>大分県豊後高田市は、リアス式海岸や遠浅の砂浜に広がる風光明媚な海岸線を有しており、その海岸線を走る国道213号沿線には、昭和30年代の雰囲気を今に残すノスタルジックな「昭和の町」や日本夕陽百選に選ばれた「真玉海岸」、縁結びの神様「粟嶋社」、春に2,200万本の菜の花、夏には160万本のひまわりが咲き誇る九州最大級の花公園「花とアートの岬 長崎鼻」など、女性の嗜好にあった観光スポットが点在している。これらの観光スポットを有機的に結び付けストーリー性を持たせることで、新たな付加価値を創出して誘客促進につなげるため、平成25年度に「昭和の町」から「長崎鼻」までの海辺の道約20kmを「恋が叶う道＝恋叶（こいかな）ロード」（平成28年1月NPO法人地域活性化支援センターの「恋人の聖地」に選定）と銘打ち、現在、主に都市部の女性を中心とした若年層をメインターゲットとして、官民をあげて地方創生に資する誘客促進事業を展開している。</p> <p>魅力的なデートスポットが数多く点在している恋叶ロードではあるが、歩みを止めることなく、恋叶ロード全体をより魅力的な観光地へとブラッシュアップするため、既存の施設等を活用した新たな魅力づくりを、地域住民、民間企業、行政等が連携し、ハード・ソフト両面において継続的に展開している。</p> <p>平成28年度には、バス会社と協働し、恋叶ロードを走る路線バスに「恋叶ロード」のラッピングを施すとともに、同じくラッピングを施し、環境にも配慮した超小型電動モビリティのレンタカー事業も開始した。また、画家の北村直登氏の協力を得て、恋叶ロード沿線のバス停に、それぞれ異なるフォトジェニックなイラストを制作するなど、常に魅力の付加を意識した。</p> <p>そして、恋叶ロードの中間点に位置する真玉地区における新たな観光スポットづくりとして実施したのが、この「恋叶トンネルアートプロジェクト」である。</p> <p>恋叶トンネルはもともとあった全長421メートルの人道トンネルで、普段は地域住民や中高生の安全確保のためのトンネルであったが、この人道トンネルに、計50以上のフォトジェニックなアート作品（壁画）を制作した。アート作品は、人と一緒に写り込むことで、ひとつの作品として完成するように設計されており、人道という機能しかなかった単なるトンネルが、今では若者を中心とした多くの観光客が写真を撮りに訪れるフォトジェニックな場所に変容した。</p>

2. 地域活性化に結びつく活動目標・目的などについて	<p>恋叶ロードは全長約20kmで、出発点の「昭和の町」から中間点の「真玉海岸」までの観光スポットがなく、ストーリーの連続性に欠けるという課題を抱えていた。そこで、着目したのが、この真玉人道トンネルの活用である。普段は通行の用に供するだけの施設であるが、人道で全長421メートルという長さの特異性を活かした新しい価値の創出ができないか検討を重ねた結果、壁面にアートを描くことで、インスタ映えスポットとしての価値を付加させた。</p> <p>恋叶トンネル自体は公道であることから、単体での収益性は期待できないが、新たな魅力の付加により、来訪のきっかけづくり、恋叶ロード全体のイメージ・認知度向上、観光客の滞留時間の延長など通じた、他の沿線観光地への経済波及効果、そして、アート作品の制作を地域の子もたちと協働することによる、地域の人々のシビックプライドの醸成を活動目標に、地域活性化を目指すこととした。</p>
3. 地域活性化に結びつく活動内容・実績などについて	<p>真玉人道トンネルは、大分県管理のため、トンネルの活用、事業実施にあたっては、大分県と大分県警察、地元住民等と協議を重ね、本プロジェクトの目的について理解を得た上で、通行人の安全性確保を前提として実施することとした。</p> <p>まず、平成28年度と29年年度に、全国公募で選出したデザインをもとに、本市で唯一の高校である高田高校の美術部生徒が、恋人や家族、友人で写真を撮って楽しめるアート作品を15作品制作した。</p> <p>その後、総合ディレクターとして壁画アーティストの空間ペインター 芳賀健太氏を迎え、恋叶トンネルアート「LOVE-happy colorful tunnel project-」というプロジェクトのもと、令和元年8月から翌年3月までの期間で、更にトンネル内の残りの壁面に、地元の小・中学校、高田高校の児童・生徒や県内の大学生、一般の有志の方々の手により、作品が描かれた。</p> <p>※壁画制作参加校 （市内学校） ・高田高校、真玉中学校、真玉小学校、臼野小学校 （県内大学等） ・APU立命館アジア太平洋大学、大分県立芸術文化短期大学 別府大学、日本文理大学、一般の方々</p> <p>恋を叶える場所（デートスポット）を自分たちで創るという大きな試みに挑戦し、トンネル内には計50作品以上のフォトジェニックなアート作品が完成した。</p> <p>完成後は、完成お披露目イベントを皮切りに、恋叶ロードの新たな観光スポットとして情報発信を強化。市の観光情報媒体を通じて発信した結果、県内外の新聞、テレビなどの各種メディアにも取り上げられるようになった。現在は、大分県内最長のインスタ映え観光スポットとして、若者を中心にカメラを手にした多くの観光客が訪れている。</p>

<p>4. 取組みに関する広報活動・SNS配信などについて <small>(※審査以外での掲出・公表しません)</small></p>	
<p>5. 活動の効果(地域の反響) <small>(※審査以外での掲出・公表しません)</small></p>	
<p>6. 数字で表す実践前と実践後の成果・比較 <small>(※審査以外での掲出・公表しません)</small></p>	

<p>7. 成果・注目ポイント(写真と説明文)</p>	
	
<p>地元小学生へのアート制作指導の様子 アート作品の制作には、地元真玉地区の多くの小・中学生が参加した。</p>	<p>地元小学生によるアート作品制作の様子</p>
	
<p>大学生によるアート作品制作の様子</p>	<p>完成後の恋叶トンネル</p>
	
<p>アート作品の一例 人が写り込むことによって、フォトジェニックな作品となる。</p>	<p>キャンペーンのWEB広告 恋叶トンネルをはじめ、沿線観光地を絡めたハッシュタグキャンペーンを実施。</p>